



道路橋示方書の改訂にともなう運用等について（通知）

技術基準の種類:設計・施工
通知日:平成3年1月28日

発管第276号
平成3年1月28日

部内各課長（建築・営繕課を除く）殿
各土木事務所長殿
鳥取港湾事務所長殿
各市町村長殿
鳥取県企業局長殿

鳥取県土木部長

道路橋示方書の改訂にともなう運用等について（通知）

道路橋示方書の改訂については、平成2年3月5日付受道第261号で通知し、平成2年度以降の設計に適用しておりますが、その運用等を別添のとおりとしましたので、適切に処理してください。

発管第276号
平成3年1月28日

部内各課長（建築・営繕課を除く）殿
各土木事務所長殿
鳥取港湾事務所長殿
各市町村長殿
鳥取県企業局長殿

鳥取県土木部長

道路橋示方書の改訂にともなう運用等について（通知）

道路橋示方書の改訂については、平成2年3月5日付受道第261号で通知し、平成2年度以降の設計に適用しておりますが、その運用等を別添のとおりとしましたので、適切に処理してください。

別添

- 1 新道路橋示方書の適用時期について
示方書改訂前にすでに設計を完了している場合の取扱いを、下記のとおりとする。
 - （1）平成2年度末までに橋梁本体（橋台、橋脚）工事に着手するものは、旧示方書による設計のままで実施するものとする。
 - （2）平成3年度以降に新たに橋梁本体（橋台、橋脚）工事に着手するものは、新示方書により設計の見直しを行った後、実施するものとする。
- 2 中掘りぐい工法におけるセメントミルクの注入範囲及び注入量について
旧道路橋示方書ではセメントミルクの注入範囲が示されていたが、新示方書では示されていない。
しかし、旧道路橋示方書で示されているものは施工上の一例に過ぎず、またセメントミルクの注入範囲及び注入量については、それぞれの施工法により異なっているのが実情である。
したがって、設計に当たっては、個別に施工法・施工事例等を検討の上実施すること。

新道建橋示方書

24. 1. 在口角, 已轉入討論學問之時了, (p282)

中層の匠下井による配管工については、その施工法として、新設工と、既設工とを区別して説明する。

中興り次第は以上より統一され、PFC社および調製社の共同開発には以上の技術開発を必要とする。

- (6) エルミット形式の対称性 (エルミート性)
- (7) エルミート形式の対称性 (エルミート性)

調査機関 調査年度 調査対象	調査内容 調査結果
----------------------	--------------

著者：竹重芳武

要 素 地 力 法 おけ付欄を記	日本各地の機械工場の労働力費の調査方法
毎 1 町 丁 の 地 力 法 1 町 丁 の 地 力 法	町 丁 別 の 地 力 法 を 用 いた る
地 力 法 の 概 要	地 力 法 の 概 要

[illegible]

また、日本銀行は先般調査報告、及び銀行に上り難いとする報告にのち通口するものとす。

一方、プロパー・インデックスについては、施工法も多岐を呈しており、追従後には若干の差が生ずるの懸念は極めて強い。この点から、一律に追従するに至っていない。そこで、追従を認める場合には、追従の程度も考慮し、追従の程度を若干の差とするものとす。

又、立付地については建築基準法により追従対象となるものゝ外、特に、プロパー・インデックスが工事に着手する状況上と異なる場合は追従を許さないこと。凡そは地味同様に追従を認めて、若干の差とするものとす。以上を要約すると、追従関係である。

3 岩盤の最大地盤反力度について

旧道路橋示方書では、岩盤の最大地盤反力度は記載されていなかったが、今回新たに記載された。

表の適用に当たっては、岩盤の名称（硬岩・軟岩等）によらず、一軸圧縮強度及び孔内水平載荷試験による変形係数を、試験により確認の上使用すること。

道路橋示方書

7. 3. 1 地盤の許容鉛直支持力 (P 2 1 4)

盤の極限支持力は、亀裂・割れ目により左右されるため、地盤定数の評価には不確定な要素が多く、支持力推定式により極限支持力を推定することは困難である。

岩盤の反力度を考慮し、母岩の軸圧縮強度を、硬岩の場合、亀裂の多少に

大きく影響されることから、孔内水平載荷試験による変形係数を目安として区分した。

表一解 7. 3. 2 岩盤の最大地盤反力度の上限値

表一解 7.3.2 岩盤の最大地盤反力度の上限値

岩 盤 の 種 類		最大地盤反力度(tf/m ²)		目 安 と す る 値	
		常 時	地 震 時	一軸圧縮強度 (kgf/cm ²)	孔内水平載荷試験による 変形係数 (kgf/cm ²)
硬 岩	亀裂が少ない	250	375	100 以上	5000 以上
	亀裂が多い	100	150		5000 未満
軟 岩 ・ 土 丹		60	90	10 以上	

注) ただし、暴風時は地震時の値を用いるものとする。

4 PC連結桁の支承縁端距離Sの取りかたについて

新示方書では、ゴム支承の場合、アンカーバー中心から次のとおりSを取る
ことになっている。

桁の支間長が100m以下の場合 $S \geq 20 + 0.5L$
 —//— 100m以上の場合 $S \geq 30 + 0.4L$

しかし、支承縁端距離Sは、荷重載荷によるせん断破壊の防止を目的として
決定されるものであるので、PC連結桁については、荷重載荷点であるゴム支
承の中心から支承縁端距離Sを取り、単純桁と同様に扱うこと。

